



「植村直己冒険賞」授賞式・記念講演会を開催
南極点無補給単独徒歩は日本人初快挙！
北極で感じた植村さんからの「恩」を語る

6月2日、日高文化体育館で、第22回となる2017「植村直己冒険賞」授賞式・記念講演会を開催しました。

受賞者の荻田泰永さん（北海道上川郡在住）は800人の市民らの前で、北極へ行くこととなったきっかけや、南極点を無補給・単独・徒歩で目指すに至った経緯、これから目指す北極について語りました。

《問合せ》植村直己冒険館 ☎44-15515



▲「冒険賞」の受賞盾とメダルを授与（左から荻田さん、中貝市長）

21歳で目指すものが分かりづらくなり大学を辞め、何もすることなく過ごしていたとき、テレビで大場満郎さん（同賞第4回受賞者）が北極の冒険を語るのを見て「自分も北極に行きたい」と思い、大場さんに手紙を書いたことから始まった荻田さんの冒険。2001年からは1人で北極を訪ねるようになり、以来、荻田さんは現地民族イヌイットの文化や歴史への理解を深めていきました。

これまでの北極冒険行は18年間に15回、北極圏での移動距離はなんと9km、北極冒険家として着実に経験を重ねてきました。

今回の冒険では、南極大陸のヘラクレス入江から南極点までの1126kmを無補給徒歩踏破、しかも単独で50日間で達成しました。

中貝市長から「今後挑戦す



▲府中小学校の児童が歌を披露

る北極点到達を応援しています」と熱いメッセージと共に盾とメダルを授与された荻田さんは「大変な賞をいただき感激です」と受賞の喜びを語りました。

また、続いて行われた記念講演会「南極点無補給単独徒歩到達への挑戦」は、荻田さん自身が撮影した写真や動画を交えて実施。「北極だけでなく、南極も、地球の両極地を歩いてみたい」「北極と違う、南極の景色、においなどを単純に体感したい」との思いから南極挑戦に至ったと説明。「私の師匠・大場さんが初めて北極を冒険したとき、アドバイスを求めたのは植村直己さん。植村さんにもきっとそういう人がいて、自分も植



▲映像を交えた講演会

村さんとながっているのだと思う」と語った荻田さん。会場の中学生に向けて「恩返しと恩送り（自分が受けた恩を次の人に送る）、ぜひ、そういうことができる人になって」とメッセージを送りました。

授賞式終了後には、植村直己さん出身地区にある国府地区コミュニティセンターで受賞者を囲む会が開催されました。今回で11回目となる同会では、コミュニティこくふや地元区長会を中心とした地域の皆さんなど約100人が、心のこもった手料理で荻田さんをもてなし、授賞式では聞くことのできなかつた話や植村直己さんの思い出話などで懇親を深めました。

やった！ 3年ぶりの勝利！！



①玄さんとチャレンジデー「歩キングダンス」(市役所市民広場)②バスケットボール(新田)③ベタンク(奈佐)④少年野球(国府)⑤太極拳(日高)⑥みんなで遊ぼう(豊岡稽古堂)⑦ロープジャンプX(新田)⑧同左(市役所市民広場)

《カテゴリー1の順位》

順位	クラブ名	参加者数
1	とよおか新田	594人
2	こくふ	157人
3	ひだか・せいしゅう	141人

《カテゴリー2の順位》

順位	クラブ名	参加者数
1	たかはし	338人
2	とよおか奈佐	75人

関連イベントとして、7校区のスポーツクラブ21が参加しました。カテゴリーを二つに分け、校区ごとの参加者数を競いました。

校区対抗チャレンジデー

5月30日、住民のスポーツ参加率を競う「チャレンジデー2018」が行われました。これは、日常的なスポーツの習慣化に向けたきっかけづくりや住民の健康づくりなどを目的とした住民総参加型イベントです。今年の対戦相手は鳴門市(徳島県)。本市のコウノトリが飛来した縁から、対戦の申し出を受けました。本市では、6万4759人(77.9%)が参加し、鳴門市(徳島県)に勝利しました。参加・協力していただいた皆さん、ありがとうございます。

《チャレンジデー2018の結果》

市名	人口	参加者数	参加率
豊岡市	83,083人	64,759人	77.9%
鳴門市	58,543人	37,235人	63.6%

ロープジャンプX

3人以上の大縄跳び。「人数×跳んだ回数」をポイントとして競いました。

《順位》①新田NUR ②消防竹野チーム ③Jumping Fire ※34チーム参加



▲対戦相手の健闘を称え相手自治体の旗を庁舎のメインボールに1週間掲揚(鳴門市旗)

2~3

今月のイチオシ

4~5

市政ニュース

6~20

豊岡 クローズアップ

21~29

くらしの情報

30~31

保健行事

32~33

図書館・つどいの広場

34~35

主な相談・主な行事